

# 令和3年産(2年播種) 麦類生育概況

長野県農業試験場 作物部

調査月日	項目	大麦:ファイバースノウ			小麦:シラネコムギ		
		平年	令和2年(播)~3年(産)	平年比	平年	令和2年(播)~3年(産)	平年比
出芽期 (11月11日)	出芽数 本/m <sup>2</sup>	165	124	75%	164	138	84%
越冬前 (12月15日)	草丈 cm	10.5	13.7	130%	13.4	13.6	101%
	茎数 本/m <sup>2</sup>	310	465	150%	378	397	105%
	葉数	3.2	4.4	+1.2	3.7	4.2	+0.5
越冬後 (3月1日)	草丈 cm	10.7	15.4	144%	13.3	17.5	132%
	茎数 本/m <sup>2</sup>	603	932	155%	794	1003	126%
	葉数	5.7	7.4	+1.7	5.8	7.2	+1.4
(3月15日)	草丈 cm	12.8	19.1	149%	14.7	23.9	163%
	茎数 本/m <sup>2</sup>	885	1055	119%	1039	1027	99%
	葉数	6.5	8.3	+1.8	6.6	8.1	+1.5
幼穂形成期 茎立期(参考)		3月9日	2月19日	-18	3月22日	2月25日	-25
		3月30日	3月19日	-11	3月29日	3月19日	-10
出穂期		5月1日	4月25日	-6	5月6日	5月5日	-1
成熟期		6月6日	6月4日	-2	6月16日	6月15日	-1
成熟期 (調査日:6月2日)	稈長 cm	90	94	104%	83	86	104%
	穂長 cm	4.8	4.4	92%	8.5	8.2	96%
	穂数 本/m <sup>2</sup>	394	475	121%	461	672	146%
収量	子実重 kg/a	66.1	71.8	109%	63.3	68.4	108%
	容積重 g/l	699	706	101%	796	807	101%
	千粒重 g	38.8	40.9	105%	42.4	41.5	98%

※平年値は過去7年間に於ける収量最大年と最小年を除いた5力年の平均値。

※茎立期はデータ数不足により平年値は参考値として平成30年度～令和2年度の平均値を示す。

## <耕種概要>

栽培様式:30cm条間ドリル播

播種期: 大麦 令和2年10月21日、小麦10月22日 播種量: 7kg/10a

施肥量(N): 基肥 6kg/10a

酸度矯正: 炭苦土石灰50kg/10a

茎立期追肥:3月5日 3kg/10a、止葉展開期追肥:大麦4月16日、小麦4月26日 2kg/10a

## <生育概況>

**越冬前** 播種期の気温は平年よりやや低く、降水量は少ない状況で、10月21～22日に播種された。11月11日時点での出芽揃期調査では出芽数は平年よりやや少なかった。越冬前の生育は、11月中旬以降からは高温・少雨傾向で推移し、大麦では草丈、茎数、葉数ともに平年より進んでいた。小麦は平年並みであった。

**越冬後** 3月1日時点の生育は、大麦、コムギともに平年より進んでいる。越冬前の時点で生育が進んでいたことに加え、1月中旬以降高温傾向が続いたことで、更に前進したと考えられる。3月15日時点の生育は、引き続き前進傾向である。

**幼穂形成～茎立期** 幼穂形成期は、平年より大麦で18日、小麦で25日程度早かった。1～2月中旬の気温が平年より高温で推移した影響と考えられる。茎立期についても平年より10日程度早かった。

**出穂期** 出穂期は平年より大麦で6日、小麦で1日早かった。茎立期までは生育が大幅に前進していたが、4月は平年よりやや気温が低めに推移したため、停滞したと思われる。また、4月10日に最低気温-2.1℃となり、凍霜害を受けたと考えられ、出穂時に穂先枯が散見された。

**成熟期** 成熟期は、平年より大麦で2日、小麦で1日早かった。6月2日の調査では、大麦、小麦ともに稈長、穂長は概ね平年並みであった。穂数は平年より多かった。暖冬により初期生育が良かったことに加え、凍霜害によって幼穂凍死による主茎の座死が発生したため、遅発茎由来の穂が増加したと考えられる。

**収量** 大麦、小麦ともに子実重は平年よりやや多く、容積重、千粒重は平年並みであった。平年と比較し、穂数が多かったことが子実重の増加に影響したと考えられる。